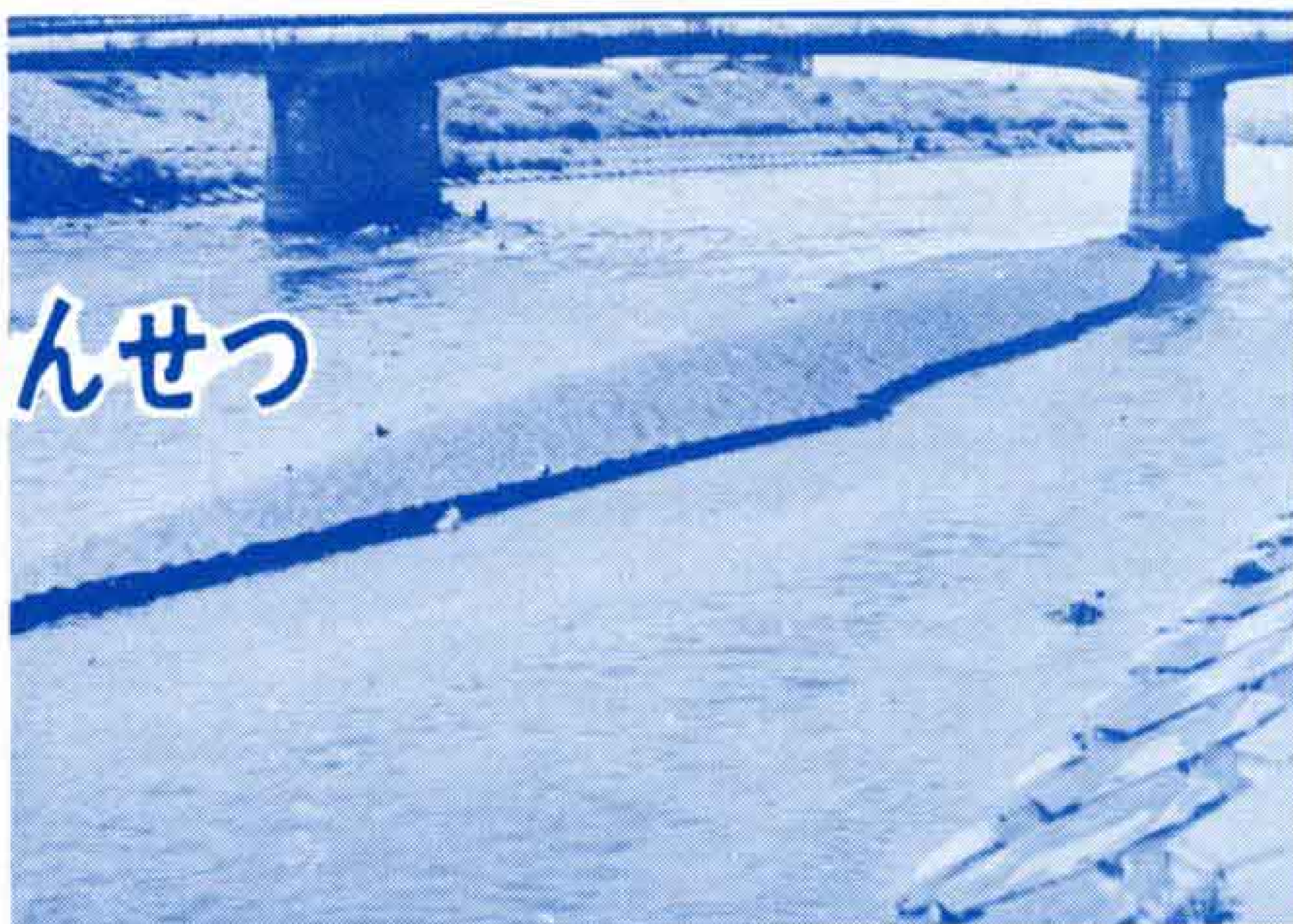


大沢崩れの土砂しゅんせつ



潤井川の取水口を重点に 5月23日から作業を開始

富士山大沢を水源にした潤井川に、5月1日と5日の大雨で大量の土砂が流れ込み、一部は田子の浦港にまで堆積しました。潤井川は、富士宮市から市内に流れ込んでいる延長約30kmの2級河川。鷹岡岩松、富士、伝法など川ぞいの地区では農業用水に利用しています。これらの地区の大部分は水田で、600haの水田から約2520トンの米がとられています。

大量の土砂が流れ込んだ潤井川の水は土色に変わり、川の中に州ができています。大沢くずれの土砂は、岩が雨や風で自然にけずられたもので、乾燥するとコンクリート状に固まり、水が浸透しにく

くなつてしまいます。

土砂が水田に流れ込むと、農作物に多くの被害が出ると予想されましたが、まだ、田植期には早かつたので、取水しているところはなく、水田に土砂は入りませんでした。しかし、田植がはじまる6月になると、どうしても水門を開いて水を引き込まなければならないので、川床の土砂を取りのぞかなければなりません。このため、市は、県に早急に潤井川のしゅんせつを行なうよう要請しました。

そこで、県は、田植前に土砂を取りのぞくことを了承し、5月23日から作業をはじめました。作業は農業用水の取水口

付近を重点に行なっています。

なお、田子の浦港に流れ込んだ土砂は約27000立方mで、潤井川の河口付近で干潮時には、底が出てしまいました。このままにしておくと、ますます広がり船の出入にも支障をきたすので、陸と海の両方からしゅんせつを行ない、20日までに約3分の1を取りのぞきました。現在でも毎日すこしづつ土砂が流れ込んでいますが、上流部のしゅんせつが進めば、しだいに量も少なくなるので、作業は今月中に終る予定です。

【写真は川の中央に州ができた潤井川】

アメリシロいまが駆除のチャンス



【産卵中のアメリシロヒトリ】

アメリカシロヒトリが、吉原、今泉、富士駅南、駅北地区に発生しています。アメリカシロヒトリが、市内ではじめて発生したのは、昭和41年で、今年は昨年より1カ月近くも早く、大発生のきざしが見えています。被害のでている樹木は、ポプラ、サクラ、プラタナス、アオギリ、キョウチクトウで、なかでもポプラが一番被害がでています。

アメリカシロヒトリは、いつたん発生すると数年間は増加するという

特色があり大量産卵すると2~3年で減少する習性があります。したがって、大量産卵の時期に駆除を行えば、一番効果があります。

丁度今年が大量産卵の時期にあたるので、市でも「みどりの課」を中心に徹底した駆除を行なっています。駆除は、発生した枝を切り取って焼くのが一番ですが、薬剤にも弱いので、散布も効果があります。なお、薬剤を使つて駆除する場合はみどりの課へご相談ください。

電話番号は正しく回して
市役所は『51-0123』

市役所の電話番号は51-0123。すでにみなさんご存知と思います。ところが局番を間違えて、かける人が多くいます。間違いやすい局番は52局で、1日に60~70回もかかってくるそうです。市役所の電話番号は51-0123ですから正しくダイヤルしてください。

市役所の電話番号は
51-0123番
です!!

